

福井ふるさと学びの森あわらエリア第1弾 「県域準絶滅危惧種 オミナエシを増やそう！」

- 1 日時：平成27年5月23日（土） 10:00～11:30
- 2 場所：福井ふるさと学びの森あわらエリア 波松民有林
- 3 参加者：一般県民25名（うち小学生4名）
- 4 指導者：里山里海湖研究所 ふるさと研究員 河田 勝治さん
(あわらの自然を愛する会)
- 5 内容：

秋の七草の1つに数えられるほど、古くから親しまれているオミナエシですが、その数は減少しており、県域の準絶滅危惧種（生育条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種）に指定されています。今回は、里山の保全・再生活動の一環として、波松民有林に自生しているオミナエシの株分けをし、移植することにより、その数を増やしていく取組みを行いました。



はじめに、あわらの自然を愛する会の河田会長から波松民有林および北潟国有林にかけて広がる森の概要について紹介がありました。



あらかじめポットに取り分けられていたオミナエシの苗を、参加者が手際よく移植していきました。秋にはきれいな花を咲かせてくれることでしょう。

里山の自然と人の営みについて考えるきっかけとなった一日でした。

《参加者の声》

- ・あまり知ることのない植物や里山について学ぶことができました。
- ・いろいろな話が聞けてよかった。
- ・オミナエシを植えて、いろいろな話が聞けてよかった。
- ・日頃自然体験等を行うことがないため、よい機会でした。
- ・普段なかなかできない自然体験ができてよかった。